

事例報告①

村高発「地域を育てる学力」への挑戦
～若者が地域を創る～

[報告者] 岡田 厚志（兵庫県立村岡高等学校 教頭）



皆さん、こんにちは。兵庫県立村岡高等学校からまいりました、岡田と申します。本日は、このような場で発表させていただく機会を与えていただき、本当にありがとうございます。私も、皆さんとともに学んで帰りたいと思っております。よろしくお願いいたします。

（スライド1）それでは、本校の取り組みにつきまして、今から発表させていただきたいと思えます。たくさんのスライドをつくっておりますので、少し駆け足になるかもしれません。そのときは、またご質問等でよろしくお願いいたします。

（スライド2、3）まずは、概要説明からです。本校は兵庫県北西部の美方郡香美町というところにあります。生活圏は、どちらかと言えば鳥取の方になります。自然が豊かですし、自然を生かしたアウトドア施設が点在しています。下にも書いてありますが、兵庫県の中でも有数の少子高齢化が進んでいる地域であるという土壌があります。

（スライド4）学校概要としましては、本校

の教育は、地域等の協働や関わりによって人材を育成することを第一の目標としております。一番下に書いています「教育指針『人みな使命あり』」という言葉は、先輩から脈々と受け継がれている、探究スローガンのような意味合いを持つ言葉です。地域にも浸透しております。

（スライド5）本校は全日制普通科、各学年2クラス規模です。「地域アウトドアスポーツ類型」です。この類型は「学区を設けない」ということです。いわゆる全国から、生徒を募集しています。普通コースは、兵庫県北部の第5学区から募集しています。類型と普通コースの割合は半々です。兵庫県北部以外から来ている生徒については、地域の協力を得まして、寮ではなくて下宿で、今、22名が生活を送っています。

（スライド6）概要の中の、地域の動きが本校のポイントになります。この地域の支援が、教育活動の原動力になっています。まずは、学校存続の請願書や要望書、この動きが行政を動かしたという歴史があります。それに伴って、学校が変革を行っていきました。

（スライド7）学校の変遷です。昭和60年から、いわゆる進学コースである、英語コースやユニバーサルコースを進めていました。しかし、地域の動きに伴って、平成23年に地域創造類型、そして平成26年に地域アウトドアスポーツ類型という、今の形になりました。今の1年生で8期生になります。

（スライド8）学校では、進学に関係のない

「地域」をテーマにした学習が保護者や中学生に認知されるだろうかという、大変な議論と苦悩があったようですが、決断をして、これをスタートさせました。

(スライド9) 今、学校の概要を説明しましたが、それを表にしたものです。時系列でまとめました。また、資料として見ておいてください。

(スライド10) いよいよ本校の「村高発『地域を育てる学力』への挑戦」について、お話をさせていただきたいと思います。

(スライド11) 村岡高校の考え方は、学校が「地域との協働によるまちづくりの拠点」、そして「未来を創造する人づくりの拠点」になることです。その大元は、日本のペスタロッチという言い方もされておりますが、兵庫県北部の教育者、東井義雄先生の「村を育てる学力」が基本になっています。その相対する考え方を「村を捨てる学力」と言い、いわゆる私たちが受けた競争型教育としています。

(スライド12) もう少し説明させてもらいますと「村」、いわゆる「地域を育てる学力」とは、協働、経験、コミュニケーションを通じて、科学化された生活的思考を育てることです。それが「生きて働く主体性」、それから「意欲を伴った学力」となって、自ら、そして地域を成長させると考えています。

(スライド13) 全国にはいろいろな地域との協働による教育活動を行っている学校があります。本校は、その中でも少し特異な取り組みを行っているのではないかと思います。地域の最高学府である高校が拠点となる形で進めています。いわゆる学校を核とした「スクール・コミュニティ」を実践しようとしています。

(スライド14) それでは、本校の具体的な取り組みを3つ紹介させていただきたいと思います。

(スライド15、16) まず1つ目「村高発！地域元気化プロジェクト」です。総合的な探究の

時間で、週1単位です。これは少し珍しいのではないかと思います。全校生徒を縦割り8班で編成しまして、地域と協働し、活性化する活動を行っています。

(スライド17) 活動班とその内容です。上の2つの民芸班と吹奏楽班は、本校の職員によって指導しておりますが、それ以外については大学の先生や地域・行政の講師と連携して実施運営しています。

(スライド18) これは細かい資料ですので、また見ていただければと思いますが、具体的な内容、講師の名前が出ています。

(スライド19～21) 民芸班、吹奏楽班、食文化班です。

(スライド22) 環境A班は棚田保全を中心に行っていますが、今年からは土壌の調査や地すべり対策等の探究も行っています。

(スライド23) 環境B班は、森林環境の調査活動を行う班です。

(スライド24、25) 地域福祉班は、冬になると「村高除雪隊」に名前が変わります。

(スライド26、27) 紙漉き班、そして集落調査班、この8つの班に分かれて活動をしています。

(スライド28、29) それから、全校生で年2回実施される地域の全国規模のマラソン大会の運営スタッフを行います。1,600～1,700人くらいの地域なのですが、約3,000人のランナーが訪れます。事務局によると、その77%がリピーターで、中高生に会いに来てくれるという話を聞きます。生徒たちは、マラソン関係者や地域の人たちと協議して、自分たちでランナーをねぎらう方法、おもてなしの方法を考えて、提案・計画、そして実践します。ランナーの方と接することで、多くのことを経験し、感じ、学ぶことができます。これも、授業で行っています。

(スライド30) 活動については、年度当初に、まず「計画」と「仮説」を立てて行います。

そして、年度末に活動報告と講師の先生による振り返りを実施して、次年度への改善へとつなげています。

(スライド 31、32) 2つ目は「地域アウトドアスポーツ類型」の地域探求学習です。これは、学校設定教科の「地域探求」という1単位によって実践しています。見ていただいたら分かるように「たんきゅう」を打ち間違えたかと思われるかもしれませんが、この文字を「求める」と「究める」のどちらにするのか、学校の中でもかなり議論があったようですが、生涯を通じて「探し求める力」を育成したいという意味で、この字に決まったと聞いております。鳥取大学地域学部先生に、学年を3年間担当していただくのが大きな特徴です。

(スライド 33) また、ほかの特徴を挙げますと、赤で書いているようなことになるかと思えます。公開授業であること、外部講師の活用は200時間以上になります。調査活動、フィールドワークを中心に行います。それから、全国の動きを知る機会や発表の場をできるだけ創出しています。最後には、卒業論文という形で自分たちの考えをまとめて、それを進路に生かしていくことになります。成果物を作成して、それを地域に発信する取り組みも行っています。



(スライド 34) 学びの流れを図にしたものです。課題解決能力を培うことを目標にしています。1年生では、地域の専門家に地域の現状を教えていただきます。そして、大学の先生か

ら、探求活動の視点を教えていただきます。2年生では、疑問や問題に対して、調査活動と協議によって解決方法を探ります。3年生では、さらに調査活動・協議を行って、提言書を作成しています。

(スライド 35) 授業の進め方は、調査活動、ワークショップ、プレゼンテーション、疑問が出たらまた現地調査、ワークショップ、プレゼンテーションを繰り返すような流れです。方向性を決めるようなポイント授業ですが、年間5回程度、大学の先生に来ていただいて、指導をしていただきます。それ以外は、学校の教員が連携を取りながら、指導を行っています。

(スライド 36) 今、8期生と言いましたが、これが探求のテーマで、青で書いているのが今の在校生の取り組みになります。

(スライド 37) そして、地域創造系は、過疎地において地域活性を行っている地域を見に行こうということから、2年生の夏季休業中には研修合宿を行っています。

(スライド 38) もう一つのアウトドアスポーツ系です。同様に、学校設定教科の「地域探求」によって「スポーツ観光と地域活性」「健康づくりと地域活性」という大きな2本の柱で、3年間、系統立てて探求活動を行います。

(スライド 39～41) これが、スポーツ系の探求テーマです。少し詳しい資料ですので、またご覧ください。

(スライド 42) それを「総合的な探究の時間」、それから「地域探求」の発表会として、10月に「村高フォーラム」を開催します。それぞれの学年、また班がプレゼンテーション、ポスターセッション、体験、実践、実演という形で発表を行います。これは、もちろん、発表の場にも、地域への発信・提案・啓発の場にもなりますし、討論の場とも位置付けています。

(スライド 43) 成果物を簡単に紹介させていただきます。

(スライド 44) これは、地域創造類型のころ

の成果物です。

(スライド 45、46) これは、現地域アウトドアスポーツ類型の1期生からの成果物です。業者に出して、きちんと製本しています。

(スライド 47、48) このように、ゲーム等も入っています。ふるさとゲームです。

(スライド 49、50) アウトドアスポーツ系の成果物です。今は「介護予防体操」というDVD・テキストで普及を行っています。

(スライド 51) 3年間のまとめとして、卒業論文「私の地域活性化プラン」を作成して、進路に生かすとともに、最後には香美町長に提案に行きます。

(スライド 52～54) ふるさと協働活動です。これはボランティア活動的な意味合いが多いのですが、生徒会や類型、それから「総合的な探究の時間」の班ごとに実践している内容です。

(スライド 55) また、連携先ですが、多くの支援や連携によって本校の活動は成り立っています。

(スライド 56) まず、平成29年からコミュニティスクールが始まりましたが、本校は平成25年より「学校運営連携協議会」を設定しまして、校長は連携活動の方針や案を提案し、同意を得て活動を行っています。

(スライド 57) 大学との連携です。鳥取大学地域学部と10年以上の連携を行っておりまして、特に赤で書いております、山根副学長と筒井先生は、本校のコーディネーター、またはアドバイザーという形で、本校の取り組みにはなくてはならない存在となっております。

(スライド 58) 行政との連携例です。学びや発表の場となっています。

(スライド 59) 地域の専門家との連携例です。

(スライド 60) それから「格好いい大人になろう」ということから、地域の卒業生や地域で頑張っている若者との連携も大切にしています。

(スライド 61) 行政の支援もとても大きくて、地元香美町から年間約180万円頂いて、全国募集や広報、成果物の作成に使わせていただいたり、下宿費用の家賃4万円を支援していただいています。「高校支援連絡会」というのは、毎月、必ず教育委員会、町との三者において、協議をして活動を進めています。それから「教育コーディネーター」として、地域おこし協力隊が本校に常駐しています。香美町の職員ですが、常駐して業務支援ならびに連絡調整をしてくれていて、本当に大きな存在です。

(スライド 62、63) これからの展望について、少し大きなことを書いていますが、研究センターを設立したいと思っています。

(スライド 64、65) 村高フォーラムでも提案したのですが、高校の出身者、関係者、地域住民、行政からなる地域づくりの知見を集結して、地域づくりの総合研究を行うような組織をつくりたいと思っています。退職された高校の先生の活躍の場でもあるかと思います。

(スライド 66) 2年前より本校の卒業生が「Connect Kami (こねかみ)」というグループで、香美町を活性しようという動きをしてくれています。そのような点の活動を集結させることで、研究センターも意味があるのかと考えています。

(スライド 67、68) あとは、ハンドブックを作成しています。これは鳥取大学の先生と協力して、高校を中心とした地域活性または探求学習について、ほかの学校やスクール・コミュニティのメンバーに情報提供したいという目的があります。今年度末に出来上がる予定です。

(スライド 69～72) 担う役割について、いろいろな意見を載せさせていただきます。これは、一つ一つ説明しませんが、卒業生や大学の先生、それから地域の声、地域の想いの強さがこの中にも表れています。

(スライド 73) 現在は、文部科学省の事業を受けて、今年2年目、来年3年目となるのです。

が「村高メソッド」として「人づくりネットワーク」をつくりたいと取り組んでいます。

(スライド 74) これは、資料です。また、ご覧ください。

(スライド 75) ロジックモデルです。

(スライド 76) 最後ですが、その活動が終了した後が本校の本当の取り組みになると思います。本校は、地域と行政に支えていただくことはもちろんなのですが、強みを生かす、特に「協働性」「多様性」「主体性」を伸ばす学びの中で、学校と地域をさらに良いクロスな関係として発展させて、地域に学んで、地域を支えて、地域になくてはならないという学校づくりをしていきたいと、今、職員全員で取り組んでいます。

(スライド 77) 少し駆け足になりましたが、以上で本校の取り組みについて報告とさせていただきます。どうもありがとうございました。

スライド1

第19回高大連携教育フォーラム

事例報告①
村高発「地域を育てる学力」への挑戦
 ～若者が地域を創る～



令和3年12月4日
 兵庫県立村岡高等学校 教頭 岡田厚志

スライド2

学校概況

みんな(生徒)が主役

スライド3

村岡高校



香住区
 ・香住ガニ
 ・柴山ガニ
 ・漁師町

村岡区
 ・山名氏
 ・城下町
 ・森林
 ・村岡高校
 ・ハチ北スキー場

小代区
 ・おしろスキー場
 ・但馬牛
 ・棚田
 ・若者

・香美町市町別人口減少率 2015-2030 26.5%
 ・高齢化率 36.60% (2030年46.7%)

スライド4

学校概況(その1)

村岡高校の教育方針

地域に学び、知識と知恵を身につけ、地域と協働する創造的な人材を育てる。

村岡高校の重点目標

地域での学びをさらに充実させ、地域を支え、元気にする人材を育成する。

教育指針「人みな使命あり」

スライド5

学校概況(その2)

2021年度 在籍生徒数 内訳

全日制普通科		1年	2年	3年	合計
地域 アウトドア スポーツ 類型	地域創造系 (但馬外の生徒数)	9 (0)	13 (0)	15 (1)	37 (1)
	アウトドアスポーツ系 (但馬外の生徒数)	10 (2)	11 (6)	16 (7)	37 (16)
普通コース		22	30	27	79
合 計 [連携校内の生徒数]		41 [27]	54 [42]	58 [38]	153 [107]

＊クラス編成は普通コースとのミックス
 ＊()内は但馬外生徒数/[]内は連携校生徒数

スライド6

学校概況(その3)

地域の動き

1999年度(H11) 住民過半数の「学級減阻止」の請願書

2006年度(H17) 香美町議会、県議会へ学校存続についての要望書を提出(住民の75%)

***2011(H23)～2014(H26) 高校の変革**

2015年度(H27)～2019年度(R1)「香美町総合戦略」
 ⇒ 施策の柱
 「高校存続に向けた入学者増加の取り組みに対する支援」

2019年2月(R1)「香美町村岡区地域連合協議会」の提言
 ⇒ 地域づくりのリーダーとなる人材育成の学舎である村岡高校を地域住民が守り支援していく。

スライド7

学校概況(その4)

村岡高校の変遷

1985年度(S60) 普通科に英語コース設置

2002年度(H14) 英語コースをユニバーサルコースに改編

2006年度(H18) ユニバーサルコース募集停止(学年2クラス)

2011年度(H23) 地域創造類型設置(特色ある学校づくり)

2013年度(H25) 学級減(1学年1クラス)

2014年度(H26) 地域アウトドアスポーツ類型に改編
2類型設置(地域創造系・アウトドアスポーツ系)
《学区なし:全国募集》(学年2クラス)

2020年度(R2) 文科省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」研究指定校

7

スライド8

学校概況(その5)

教職員の苦悩と決断

県下各校の特色化、学級減対策
2011年度「地域創造類型」を創設して募集開始

保護者の興味関心は、卒業後の進学保障。進学に関係のない「地域」をテーマにした学習・・・

- ・保護者の理解は得られるのか?
- ・どうすれば生徒募集の切り札とできるのか?

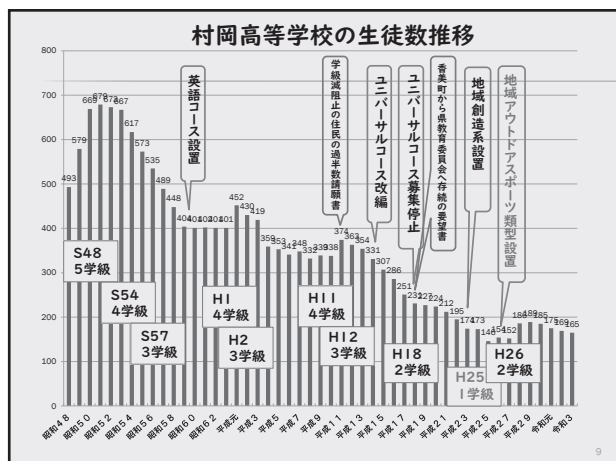
◎2011(H23)年度 学校設定教科『地域探求』設置
大学教授の助言もあり、「知識伝達型の授業」から「探求心を育む授業」へ(自己の夢への探求心の育成)

◎2013(H25)年度 総合的な学習の時間「村高発 地域元気化プロジェクト」開始
全校生による地域活性化へ向けての実践活動として、全校生で地域づくりに取り組むこととした。

2014年度 地域アウトドアスポーツ類型に改編(全国募集)

8

スライド9



9

スライド10

村高発 「地域を育てる学力」 への挑戦

10

スライド11

地域社会で村岡高校が担うポジションは・・・

村岡高等学校は、

協働のまちづくりの拠点

地域の未来を創造する人づくりの拠点

村を育てる学力

「みじめな村をさえも見捨てず、愛し、育て得るような、主体性をもった学力」

(東井義雄(1957)『村を育てる学力』明治図書)

村を捨てる学力

- ☐ 競争型教育
- ☐ 受験のための知識獲得
- ☐ 地域の若者を都市へ送り出す装置としての学校

11

スライド12

地域(村)を育てる学力とは?

知識偏重の競争型教育から脱却した、生活の中でたくましく生きて働く、主体性や生きる意欲を伴った学力。

地域づくりの過程を通して、地域と協働し、地域の魅力を活かして、地域を育て、自らも育つ学力。

12

スライド 13

高校生が地域づくりに関わる実践（地域系高校）

「このままでは高校や地域が存続できない」という危機意識

- ① 行政（議員集団）が学校に働きかけて地域づくりを進めようとするケース
岐阜県立 可児高等学校 等
- ② 地元の行政やコミュニティが高校に働きかけて、一緒に地域づくりを進めようとするケース
島根県立 隠岐島前高等学校 等
- ③ 高校が地域に働きかけて一緒に地域づくりを進めようとするケース
兵庫県立 村岡高等学校

スライド 14

「地域を育てる学力」育成の具体化

- 1 村高発！地域元気化プロジェクト
（総合的な探究の時間 1単位）
- 2 地域アウトドアスポーツ類型の授業
（学校設定教科：地域探究 各1単位）
- 3 高校生ふるさと協働活動

スライド 15

村高発！
地域元気化プロジェクト
[総合的な探究の時間 1単位]

スライド 16

村高発！ 地域元気化プロジェクト

- 学年縦割で編成したグループ活動
- 地域と協働した活動を各班で展開
- 全校生が地域イベントのスタッフとして参加
- 活動成果を全校生や地域へ発表

スライド 17

村高発！ 地域元気化プロジェクト2021	
活動グループ名	活動内容
民芸班	踊りと太鼓の出前演舞活動、出前レッスン活動。
吹奏楽班	出前コンサート活動、近隣小学校へ出前レッスン活動。
食文化班	村岡食材研究、商品開発、郷土料理提供サービス活動
環境A班	「棚田保全」・「水田の土壌調査」
環境B班	「森の健康診断」「木の駅プロジェクト」
地域福祉班	聞き取り調査し支援策を検討・実践活動/冬季：村高除雪隊
紙漉き班	射添紙復活プロジェクト協力
集落調査班	集落の魅力を発信するための集落調査活動
開催月日	全班参加活動内容
10月31日(日)	みかた残酷マラソンに学校行事(全員参加)として企画から参加 2021年度中止
9月26日(日)	村岡グランドマラソンに学校行事(全員参加)として企画から参加 2021年度中止
10月9日(土)	住民を招いて開催する「村高フォーラム」で活動発表 2021年度は非公開で実施
3月9日(火)	「総合的な探究の時間発表会」校内で活動発表会を開催

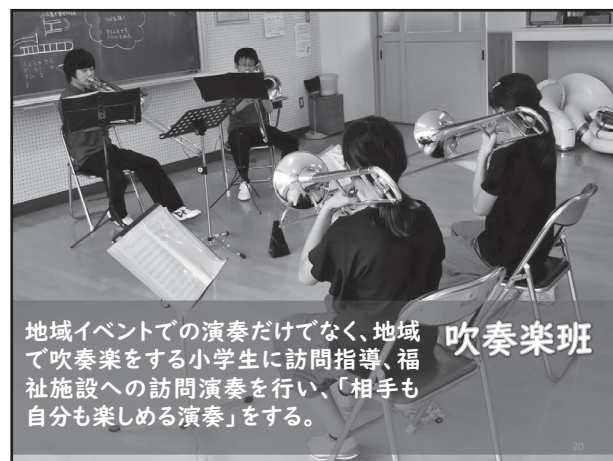
スライド 18

総合的な探究の時間[村高発 地域元気化プロジェクト (1単位)]	
活動内容	活動内容
①民芸班	・民謡集団舞踊を中心に踊りと太鼓の出前演舞活動 ・出前レッスン活動
②紙漉き班	・長瀬集落での射添紙復活プロジェクト協力 ・村岡グランドマラソン協力 ・射添小 紙漉き体験授業スタッフ (本多秋氏)
③吹奏楽班	・施設・病院等への出前コンサート活動 ・近隣小学校への出前レッスン活動
④食文化班	・村岡食材研究 (木谷恒子氏) ・商品開発 (村上裕世先生) ・地域イベントでの郷土料理提供サービス ・美方大納言製造活動(予定) (香美町農林水産課)
⑤環境A班 (棚田保全)	・買田集落「うへ山棚田」の保全活動 ・小代地域局長：上田和幸氏 (小林良寿氏)
⑥環境B班 (森の健康診断)	・水田の土壌調査 (小代地域局長：香美町農林水産課) ・地すべり防止と長寿化 (但馬県民局、豊田土地改良センター) ・「森の健康診断」 (鳥取大学：永松天光氏) ・「木の駅プロジェクト」 (香美町農林水産課：北村浩史氏)
⑦地域福祉班	・聞き取り調査・支援策の検討および実践活動 ・(高齢者・子どもに関わる課題を見つけ、解決策を考え、企画案を作り、地域で実践していく。) ・「村高除雪隊」
⑧集落調査班	・集落の魅力を発信するための集落調査を実施する。 ・(鳥取大学：岡井一伸先生) ・(小代地域局長：上田和幸氏)
地元マラソン大会へ全校生参加活動	・みかた残酷マラソン・村岡グランドマラソンに企画から参加し、全校生がスタッフとして参加する。 ・(みかた残酷マラソン実行委員会) 10/31 ・(村岡グランドマラソン実行委員会) 9/26
村高フォーラム開催 (10/9)	・地域住民を招いて、運動の報告および地域の活性化について議論する。 ・(鳥取大学：岡井一伸先生・アレクサンダー・キーン先生)
地域づくりサミットin但馬 (7/17)	・立教大学・小泉元宏先生 ・高校生による地域づくりサミットin但馬の企画・運営 ・(鳥取大学：多田進一郎先生・岡井一伸先生)
総合発表会 (3/8)	・総合的な探究の時間の成果を発表する。 ・(鳥取大学：石山雄貴先生)

スライド19



スライド20



スライド21



スライド22



スライド23



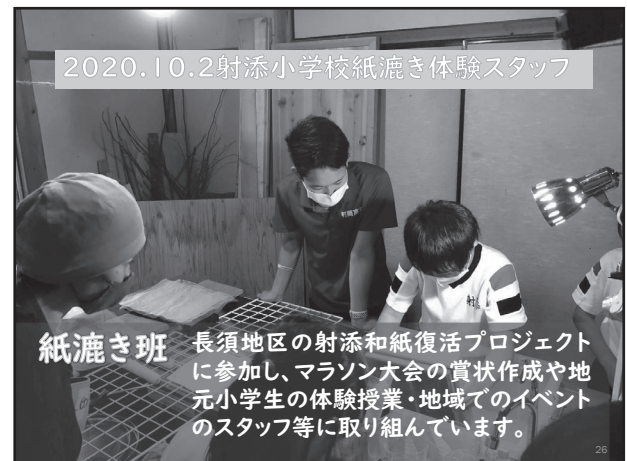
スライド24



スライド 25



スライド 26



スライド 27



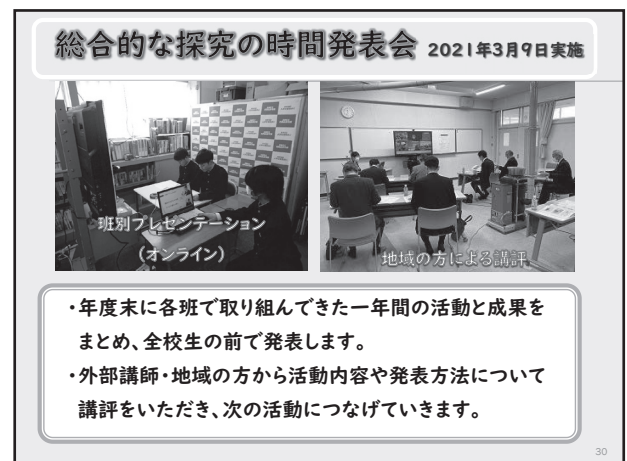
スライド 28



スライド 29



スライド 30



スライド 31



スライド 32

学校設定教科「地域探求」

- ・「知識伝承型」から「探求心を育む」授業へ
- ・1年生で「地域を知り」（体験）、2年生で「地域を深め」（調査）、3年で「地域を創る」（提案・実践）をテーマに学校設定教科を置く
- ・各科目に大学教員等を配置して「学習の体系化」を図る。（学年を3年間担当する）

スライド 33

「地域探求」の特徴

- ①すべてを公開授業とする。（住民参加）
- ②地元の外部講師を活用する。（地域に開かれた学校）
- ③調査活動を中心に置く。（地域への働きかけを行う）
- ④大学等の公開講座等へ積極的に参加する。（全国の地域づくりの動きを知る）
- ⑤町長講演会・教育講演会・地域づくりサミット等を開催。（学びの場・発表の場を創出）
- ⑥第2学年で地域創造系生徒が2泊3日の夏季現地研修（先進地の住民と情報交換を行う。）
- ⑦第3学年で地域への提言として、卒業論文「私の地域活性化プラン」を作成し、香美町へ提言する。
- ⑧3年間のまとめとして毎年、冊子・ビデオ・パンフレット等を作成し、地域に配布する。

スライド 34

地域創造系の学習のねらい

知識ではなく、学ぶ方法を学ぶ。（課題解決能力を培う）

地域を知る 地域学入門	地域を深める 地域探求Ⅰ	地域を創る 地域探求Ⅱ
地域の自然と歴史 各分野の専門家の 視点から「郷土」を 知る。 探求の視点を学ぶ (3年間の基礎)	課題の設定 知ることによって発生した疑問や問題に対する解決方法を、 調査活動を通して探る。	地域への提言 「課題」に対する、 調査活動と提言書の作成。

スライド 35

「地域探求」の進め方

・大学、地元講師等による講義・現地調査で知識、調査活動の方法、ポイントの理解を深める。（地域学入門）

- 現地調査①
- まとめ（疑問、課題）
- プレゼン（講師による助言）
- WS意見共有
- 現地調査②・・・
- まとめ（探求テーマ）・プレゼン（講師）
- 関係者と協働した活動
- まとめ・プレゼン（講師）
- 発表・発信・提案

地域探求ⅠⅡ

スライド 36

鳥取大学や地域の専門家の指導 地域活性を探究・発信・提言する

- 1期生 集落魅力発信プロジェクト
～小規模集落の魅力発見～
- 2期生 ふるさと教育の体系化
- 3期生 八幡山彫刻公園復活プロジェクト
- 4期生 まち歩きゲームの開発「目指せ!村岡ものしり博士」
- 5期生 ふるさと教育教材開発プロジェクト
- 6期生(3年) 石碑を巡る香美の旅(映像による発信)
- 7期生(2年) マーケティングを活用した地域づくり
～ヒト・モノ・コトを売り出す～
- 8期生(1年) SDGsによる持続可能社会を目指して

夏季現場研修（夏季休業に実施）

【2021年度 合宿研修:地域創造系2年】2021.8.3
徳島県上勝町（日帰り研修）
「葉っぱビジネス」による地域活性化





様々な取り組みの講演
彩農家さんの聞き取り
ゼロウェイストの現地説明

【過去の訪問先】（2泊3日で実施）
2012年～2015年 鳥根県海士町
2016年 山口県長門市俵山地区
2017年 山口県宇部市ときわミュージアム
2018年 岡山県西栗倉村
2019年 鳥根県太田市
2020年 奈良県明日香村（オンライン研修）

アウトドアスポーツ系の展開

1 学年

地域学入門

アウトドアスポーツの体験とスポーツ理論を学ぶ。

- ・スポーツ概論
- ・スポーツ指導論
- ・トレーニング理論
- ・栄養学
- ・鍼灸
- ・コンディショニング実習
- ・アウトドアスポーツ体験
- ・野外合宿

2 学年

地域スポーツ I

スポーツ観光と地域活性化
健康づくりと地域活性

3 学年

地域スポーツ II

冒険教育 I・II
アウトドアスポーツインストラクターの資格取得

生涯スポーツ探究 I・II
ゴルフ・スキー等の技術修得

スポーツ実践 I・II
トレーニングの理論と実践を学ぶ

鳥取大学や地域の専門家の指導 スポーツによる地域活性を探究する

1 期生 「香美町ウォーキングマップ」作成
2 期生 「産学連携によるスポーツツーリズム実践」
3 期生 「トレーニングコース作成」「オリエンテering普及」
「ウォーキングマップ活用」
4 期生 イベント企画運営「村岡ウォークとバードウォッチ作り」
5 期生 「オリエンテering」の普及と教育的効果
6 期生（3年）「介護予防体操による身体機能改善」
DVD化
7 期生（2年）「オリエンテering」の普及と教育的効果
8 期生（1年）※2年次で決定

地域アウトドアスポーツ類型「学校設定教科:地域探求（各1単位）」

「知識ではなく、学ぶ方法を学ぶ（理解能力を培う）」を趣旨として、各学年類型に科目を設置し、地域を知り（1年）、地域を深め（2年）、地域を創る（3年）をテーマに学習を進めている。また、各科目に大学講師を配置し、学習の体系化を図り、大学・地域等の講師との連絡調整は香美町地域おこし協力隊（教育コーディネーター）が行う。

学年	科目	系	講師・協力者	内 容
1 年 6 2 期生	地域学入門	地域創造系	地元講師 （西田順夫氏） （吉澤 尚氏） （斎村定昌氏） （石松 崇氏）	地元の自然・歴史・文化の学習
		アウトドアスポーツ系	鳥取大学 （松山真生先生） 鳥取大学 （西嶋孝浩氏） 鳥取大学 （堀江孝典先生） 鳥取大学 （堀江孝典先生）	獣被害について SDGsによる持続可能な社会を目指して（仮称） アウトドアスポーツ体験 スポーツ基礎理論の習得 栄養学
2 年 6 1 期生	地域探求 I	地域創造系	鳥取大学 （白石先生） 香美町教育委員会 教育総務課	フィールドワークを活用した地域づくり 「ヒート・マップ」を売り出す 地域探求合同研修会 日程：7/29 下旬
	地域スポーツ I	アウトドアスポーツ系	香美町教育委員会 （田中利彦氏） 鳥取大学 （関根二先生）	健康づくりと地域活性 ・オリエンテering の普及活動 ・ウォーク・ラン・サイクリングの推進 ・関係者との連携
3 年 6 0 期生	地域探求 II	地域創造系	鳥取大学 （関根二先生） 香美町企画課 鳥取大学 （関根二先生）	国際的・芸術的・文化的アプローチによる地域活性化 ・石橋を渡る香美の旅 ・地域創造系 I ～3 年対象 香美町長講演会（7/中旬）
	地域スポーツ II	アウトドアスポーツ系	香美町福祉課 （大西様代氏） 鳥取大学 （関根二先生）	健康づくりと地域活性 ・介護予防体操による身体機能改善 ・元気体操作成・普及 （DVD作成）

アウトドアスポーツ系実施科目「学校設定教科:総合スポーツ学」

学年	科目	単位数	講師・協力者	内 容
2 年	冒険教育 I	2 単位	地元講師 （とちのき村）	ツリーイングジュニアクライマー、MFA、キャンプインストラクター資格取得を目指す講義・実習を行う
	生涯スポーツ探究 I	1 単位	地元講師 （井上直樹氏）	地域の自然を活かして、ゴルフ・スキーの実習を中心に行う。
	スポーツ実践 I	1 単位	地元講師 （森井勇希氏）	体力トレーニングの理論と実習を行う。
3 年	冒険教育 II	2 単位	地元講師 （とちのき村）	ツリーイングジュニアクライマー、MFA、キャンプインストラクター資格取得を目指す講義・実習を行う
	生涯スポーツ探究 II	1 単位	地元講師 （井上直樹氏）	地域の自然を活かして、ゴルフ・スキーの実習を中心に行う。
	スポーツ実践 II	1 単位	地元講師 （森井勇希氏）	スポーツにおけるリーダー（指導者）となるための理論と実習を行う

村高フォーラム

【プレゼン・ポスター発表】
「地域創造系」「アウトドアスポーツ系」
「総探」の成果をまとめ発表する。

【記念講演】
ゲストを招き地域づくりを学ぶ。

【パネル討論会】
地域づくりをテーマに、行政や
地域住民と共に討論する。

↓

地域住民・行政への発信・提案・啓発



プレゼンテーション



パネル討論会



ポスターセッション

スライド 43



スライド 44



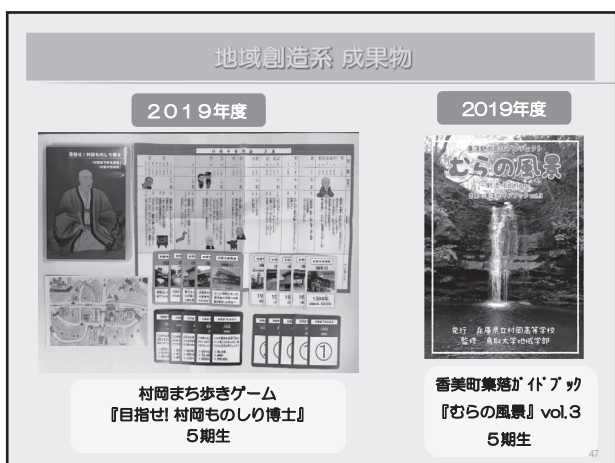
スライド 45



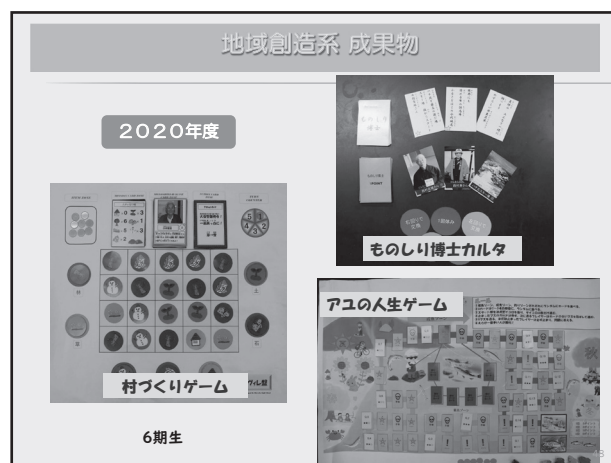
スライド 46



スライド 47



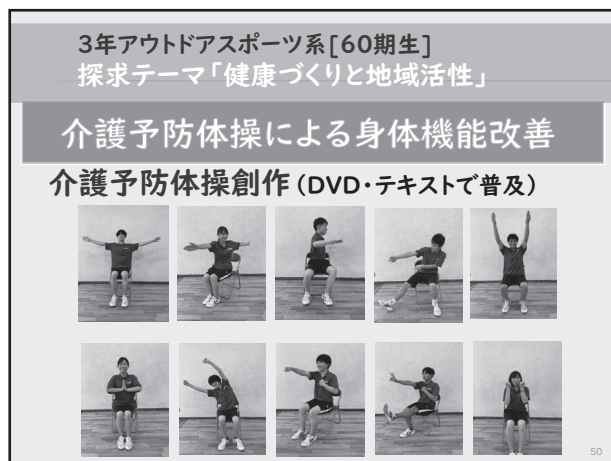
スライド 48



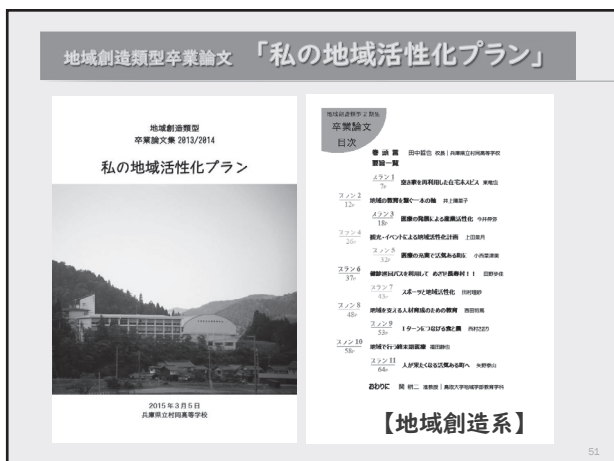
スライド 49



スライド 50



スライド 51



スライド 52



スライド 53



スライド 54



スライド 55

連携先機関







大学等の研究機関

- 鳥取大学
- 兵庫県立大学
- 鳥根大学
- 福井大学
- 雇正社医療スポーツ専門学校

地域の行政機関

- 香美町役場
- 香美町教育委員会
- 香美町福祉協議会
- 地域おこし協力隊 (教育コーディネーター)

地域の専門家

- 山陰海岸ジオパーク推進員
- 地元歴史研究者
- NPO法人

村岡高校

・地域探求
・総合的な探究の時間

スライド 56

村岡高等学校 学校運営連携協議会

設置 H25.3.11 (2013)

協議事項

- ① 村高と地域との協働活動連携
- ② 村高の実践成果と課題
- ③ 村高の教育活動の展開
- ④ その他事業目的達成に必要な事 (村高下宿運営組織として同意を得た)

委員

- ① 香美町 (企画課長)
- ② 香美町教委 (教育企画研修室長)
- ③ 学識者 (鳥取大学地域学部教授)
- ④ 地域小中学校長 (村岡小・中校長)
- ⑤ 類型関係団体代表 (冒険教育団体・スポーツ推進委員会・若者懇話会・地元企業)
- ⑥ 小中PTA代表
- ⑦ 村高同窓会長副会長・PTA会長
- ⑧ 村岡高校長

運営方法 会長 (同窓会長) が校長と協議して招集。
校長は連携活動の基本方針・基本案を提示し、同意を得て、連携支援を受けながら地域協働活動に関する学校運営を行う。



スライド 57

2021 高大連携 (鳥取大学地域学部)

「学校運営連携協議会」のアドバイザー : 山根俊喜 氏 (鳥取大学副学長)

「地域創造教育サポーター」の設置 : 鳥取大学地域学部の学生に委嘱

アドバイザー	科目	テーマ
石山雄貴 氏 【地域創造コース 講師】	地域学入門 (地域創造系1年)	SDGsによる持続的な地域を目指して
白石秀寿 氏 【地域創造コース 講師】	地域探求Ⅰ (地域創造系2年)	「マーケティングを活用した地域づくり」
アレクサンダー・ギンソ 氏 【国際地域文化コース 講師】	地域探求Ⅱ (地域創造系3年)	国際的・芸術的・文化的アプローズ 「石碑を巡る香美の旅」
関耕二 氏 【人間形成コース 准教授】	地域スポーツⅠ (スポーツ系2年)	健康づくりと地域活性 「介護予防体操による身体機能改善」
塩沢 健一 氏 【地域創造コース 准教授】	地域探求講演会	助言 (評価と課題・展望について)
永松大 氏 【農学部 教授】	総合的な探究の時間 (環境B班)	「森の健康診断」 (人工林の調査)
筒井一伸 氏 【地域創造コース 教授】	総合的な探究の時間 (集落調査班)	「集落の魅力発見プロジェクト」 (小規模集落がイノベーションづくり)

スライド 58

地域の行政機関等



学校運営連携協議会
(香美町・鳥取大学・同窓会・PTA・小中学校・地域代表・高校)



町長講演会・討論会
「香美町の現状と課題について」



高校生議会
(香美町議会・議会事務局)



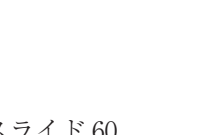
僕らの未来ミーティング



森の健康診断
(香美町農林水産課と)



香美町挨拶運動
(香美町教育委員会と)



未来ミーティング
(香美町企画課と)

スライド 59

地域の専門家



但馬の植生
(地元講師)



但馬の地質
(地元講師)



村岡歴史探索
(地元講師)



アウトドアスポーツ実習
(とちのき村)



紙漉き体験
(地域おこし協力隊)



水生昆虫調査
(地元講師)

スライド 60

地域の若者と連携



総合的な探究の時間



地域創造系授業



村岡おんがえしプロジェクト (大学生)



香美町若者まちづくり懇話会

スライド 61

行政の支援・連携

- ①「高等学校魅力化支援事業」
魅力ある高校づくりに資する事業80万円／生徒募集活動に資する事業100万円
- ②「香美町高校生徒下宿費補助金交付制度」
村岡高校・香住高校に通学不可能な生徒に、上限月4万円の下宿費補助金を交付 <全県・全国から生徒を募集するための香美町の支援策>
- ③「高校支援連絡会」
香美町企画課・香美町教育委員会・高校の3者で毎月1回開催し、情報交換を行っている。
- ④「香美町総合戦略」(2015-2019)
高校存続に向けた入学者増加の取組に対する支援が施策の柱のひとつに掲げられている。
- ⑤「教育コーディネーター」
香美町地域おこし協力隊(総務省事業)を派遣(学校に常勤)。



61

スライド 62

今後の 展望

62

スライド 63

展望 1

「教育のまち」を創る 研究センター 設立構想

大人の探究コミュニティ構築へ向けて

63

スライド 64



村高フォーラム2020討論会テーマ
「地域と学校/『教育のまち』を創る」
『大人の探究コミュニティ』の構築を

64

スライド 65

研究センターの位置づけ

官民学一体となった地域プラットフォーム構築

- ① 高校を卒業した若者の学びの共同体
- ② 小中高の「ふるさと教育」のコーディネーター
- ③ 地域を担う人材育成・確保(新過疎法)を具体化する(公立)機関

高校出身者・関係者の知見を集結

キーワード

地域 教育 協働 人材 コーディネート

65

スライド 66

こねかみについて

【こねかみとは】

「香美町を若者から盛り上げたい。自分たちのまちを自分たちでよくしたい。そんな行動を起こしたい」と思う心熱いメンバー7人で活動している団体です。
代表である井堀・小林を筆頭に香美町で育った若者が未来の香美町について考え、日々活動しています。

【こねかみの理念】

広大な面積、豊かな自然を持つ兵庫県香美町。そんな香美町の魅力に目を見やり、帰ることが出来る場所、住み続けられるまちを、自分たちの手でつくりたい。そのために香美町を構成する3つの地区、香住・村岡・小代の境目、世代の境目を越えて、若者からまちをつなぐ。そして、その先に広がる仲間の手。立ち上がり、「香美町をもっと強く！」



66

スライド 67

展望 2

探求ハンドブック作成へ

全国どこでもできる実践を目指して

スライド 68

書籍企画案
“学び”が地域を創る
ふつうの普通科高校の地域協働物語（仮題）
（2021年度末発行予定）

全国で進められる高校魅力化が行政や地域住民から高校に働きかけられてきた傾向が強い中で、村岡高校は教員主体で発案され、高校を中心に地域協働が進められてきた普通科高校教育の展開という特長を持っており、教員として地域とかかわる教育の位置づけが本書の柱となる。

活動に参加する誰もがキーパーソンとなって進展する学びとは何か、それを支える関係づくりの要諦とは何か。そして、地域との連携が求められる現場教師を中心に、高校と連携を進めたい行政や地域コミュニティのメンバーなどに有益な情報を提供するものと期待する。

スライド 69

まとめにかえて...

村岡高校の担う役割

スライド 70

生徒の声（地域創造系卒業生）

- 地域探求の活動で活性化に取り組んでいる人と話をすることで新たな発見があった。故郷が好きになった。
- 地域探求で地域の多くの人に会った。地域が若者に変期待していることが分かった。
- 私は香美町職員となって香美町の課題に正面から向き合って活性化に貢献したい。
- 地域探求で自分の考えが大きく変わった。大学を卒業して地元に帰ってくる。そして、私の地域活性化策（卒業論文）を実行に移したい。

スライド 71

大学講師の声（寄稿文より）

発見したのは、思いを持った教員のみなさま、地域おこし協力隊などを含めた地域の方々、そして、村岡の人々の関係性のなかで大きく成長していく生徒たちであった。

私から見れば、「地域の隠された魅力」というのは、村高そのものであり、みなさんであった。卒業生のみなさんは、どうか誇りに思ってもらいたい。他に、こんな高校はないのだから。私は本当に、村岡高校のような学校で、学んでみたかった。

スライド 72

地域の声

- 私は町の抱える課題に取り組んでいる村高の「応援団」です。ぜひ香美町に残って町づくり、地域づくりにがんばってください。これからも応援します。
- 村岡高校の存続は、私たちの地域の存続でもあります。学校を失った地域が急速に求心力を失っているのはみなさんもお存じのとおりです。今本当に手を打たなければこどもたちの未来はありません。

スライド 73

地域との協働による高等学校教育改革推進事業 (地域魅力化型) R2～4

「村高メソッド」の開発

<研究開発の目標>
 地域と連携、協働した実践的、体験的な取組が郷土愛を育むとともに、「人づくりネットワーク」を構築し、未来型人材を育成する。

↓

<目指す生徒像>
 地域の現状を理解し、地域課題発見・解決に寄与する学びから「新たな地域資源を創造する」意欲を持つ生徒。

73

スライド 74

兵庫県教育委員会 兵庫県立村岡高等学校 令和2年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）

ちいき大好きプロジェクト ～郷土愛を育む「村岡メソッド」の開発～

但馬地域が輩出した日本のベストタレントと謳われた東井義雄。彼の「村を育てる学力」の理念は、現在の教育に通じる。本プロジェクトは、生徒が地域での学びを通して、「村に地域を育てる学力」等を身につけるとともに、この地域で暮らしつづけることを要する、未来型人材の育成を行う。

利用可能な資源

- 山・川・海、豊かな自然環境
- 但馬牛・マツハ/カニなど豊富なブランド食材
- スキー・登山など多様なアウトドアスポーツ施設

教育上の課題

- 若い世代の流出による人口減少の加速化と少子高齢化の進展
- 地域を支える担い手の高齢化による観光産業等の後継者問題
- 需不足など気象変化の影響によるスキー以外の魅力づくり

利用可能な関係者

- 地域を愛し、地域課題の解決に寄与する「人づくり」「地域づくり」

<研究開発の目標> 地域と連携、協働した実践的、体験的な取組が郷土愛を育むとともに、「人づくりネットワーク」を構築し、未来型人材を育成する「村岡メソッド」を開発する。

①課題発見能力
②課題解決能力
③プレゼンテーション能力

④新たな価値を創造する能力
⑤コミュニケーション能力
⑥議論する能力

⑦コーディネート能力
⑧自己表現能力

「地」を知る

- 観光施設経営者等による講義
- 地域での調査実習
- 地域課題への調査

「地」を深める

- 地域での探究活動
- 企業との協働づくりを学ぶ学びの研修
- スポーツツーリズムの企画、開発

「地」を創る

- 卒業論文「私の地域活性化プラン」の作成・発表
- スロープに関する動画制作
- HP・インスタグラムを活用した地域の魅力発信
- ふるさと教育実践（ゲーム）によるふるさと教育の推進
- 町民と町民の間に寄り添う

連携・協力・支援
 コンソーシアム構成団体
 兵庫県教育委員会、兵庫県立村岡高等学校、地域団体・企業、町会、村岡高校、町会、地元研究者、地・小・中・小学校

目指す生徒像
 地域の現状を理解し、地域課題発見・解決に寄与する学びから「新たな地域資源を創造する」意欲を持つ生徒。

74

スライド 75

ちいき大好きプロジェクト～郷土愛を育む「村岡メソッド」の研究開発

インプット	アクティビティ	アウトプット	中間アウトカム	最終アウトカム
コンソーシアム 香美町 香美町役場 香美町教育委員会 地元企業・団体 地域専門家・住民 町会 カリキュラム専門家 地域協働学習 実施支援員 (香美町地域おこし協力隊) 鳥取大学 地域活性化プロジェクト (総合的な探究の時間) 地域イベント ボランティア 調査 高校支援委員会 魅力化推進委員会	定期意見交換 地域課題・魅力共有 地域創造系 ・地域を知る ・地域を深める ・地域を創る アウトドアスポーツ系 ・地域資源活用アウトドアスポーツ ・地域の健康づくり ・スポーツ観光と地域活性 村高発 地域活性化プロジェクト (総合的な探究の時間) 地域イベント ボランティア 調査	「地域資源を活かした観光産業の活性化」 合宿研修 地域づくりサミット 調査実習 教育講演会 鳥取大学公開講座 WMG2021 26 プラント等 「家としての暮らしを町づくり」 集落調査 自然観察・歴史文化 地元アットアゲ・体験・普及・支援 小規模店舗 放課後子供教室 土曜わいわい 学習 町民協働学習	課題発見能力 課題解決能力 コーディネート能力 新たな価値を創造する能力 村高フォーラム 総合的な探究の時間 発表会 コミュニケーション能力 議論する能力 プレゼンテーション能力 自己表現能力	「地域を育てる学力」を身につけた、地域を育てる未来型人材の育成 高校での「地域を育てる学力」の体系化 地・小・中・高校における「ふるさと教育」の体系化 大学生・社会人へと繋ぐ「地域づくり」の体系化 住民参加型の探究活動の実践 人づくりネットワークの構築

75

スライド 76

委託事業終了後の見通し

- ・地域と連携した協働性のある学び
- ・全国募集を活用した多様性のある学び
- ・地方部小規模校の特性を活かした主体性を伸ばす学び

76

スライド 77

地域に魅せる村高の背中

ご清聴ありがとうございました。

77